

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)信光陸運株式会社一宮物流センター	階数	地下0階地上3階
建設地	愛知県一宮市千秋町天摩字北野35の一部他21筆	構造	S造
用途地域	市街化調整区域	平均居住人員	50 人
気候区分	6地域	年間使用時間	3,430 時間/年
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2025年12月 予定	評価の実施日	2025年1月14日
敷地面積	14,924 m ²	作成者	加茂 秀明
建築面積	10,335 m ²	確認日	2025年1月14日
延床面積	19,714 m ²	確認者	高橋 豊



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO ₂ 温暖化影響チャート	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
BEE = 0.6 S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★ 30%: ☆☆☆☆ 60%: ☆☆☆☆ 80%: ☆☆☆ 100%: ☆☆☆ 100%超: ☆ 標準計算 ①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+ このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです	標準計算 ①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+ このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです	Q2 サービス性能 Q1 室内環境 Q3 室外環境(敷地内) LR1 エネルギー LR2 資源・マテリアル LR3 敷地外環境

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
Q 環境品質 Q1 室内環境 Q1のスコア= 0.0 音環境 温熱環境 光・視環境 空気質環境	Q2 サービス性能 Q2のスコア= 2.9 機能性 耐用性 対応性	Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア= 2.1 生物環境 まちなみ 地域性・
LR 環境負荷低減性 LR1 エネルギー LR1のスコア= 2.5 建物外皮の 自然エネ 設備システ 効率的	LR2 資源・マテリアル LR2のスコア= 2.5 水資源 非再生材料の 汚染物質	LR3 敷地外環境 LR3のスコア= 2.9 地球温暖化 地域環境 周辺環境

3 重点項目		
①地球温暖化への配慮 N.A	③敷地内の緑化 1.0 外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積) 49.2 % 建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積) 0.0 %	
②資源の有効活用 2.7	④地域材の活用 1.0 <外装材に使用した地域性のある材料> なし <建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材> なし	

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮

LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用

Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性

LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化

Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}}$ × 100建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建物によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}}$ × 100

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き
【仮称】信光陸運株式会社一宮物流センター

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄						全体	
配慮項目	教自基準 重点項目	評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数				全体
Q 建築物の環境品質											2.4
Q1 室内環境											-
1 音環境											-
1.1 室内騒音レベル		3.0	-	-	-	-	-				-
1.2 遮音		-	-	-	-	-	-				-
1 開口部遮音性能		-	-	-	-	-	-				-
2 界壁遮音性能		-	-	-	-	-	-				-
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		-	-	-	-	-	-				-
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		-	-	-	-	-	-				-
1.3 吸音		-	-	-	-	-	-				-
2 温熱環境											-
2.1 室温制御		-	-	-	-	-	-				-
1 室温		3.0	-	-	-	-	-				-
2 外皮性能		3.0	-	-	-	-	-				-
3 ゾーン別制御性		3.0	-	-	-	-	-				-
2.2 湿度制御		3.0	-	-	-	-	-				-
2.3 空調方式		3.0	-	-	-	-	-				-
3 光・視環境											-
3.1 昼光利用		-	-	-	-	-	-				-
1 昼光率		3.0	-	-	-	-	-				-
2 方位別開口		3.0	-	-	-	-	-				-
3 昼光利用設備		3.0	-	-	-	-	-				-
3.2 グレア対策		-	-	-	-	-	-				-
1 昼光制御		5.0	-	-	-	-	-				-
3.3 照度		3.0	-	-	-	-	-				-
3.4 照明制御		3.0	-	-	-	-	-				-
4 空気質環境											-
4.1 発生源対策		-	-	-	-	-	-				-
1 化学汚染物質		3.0	-	-	-	-	-				-
4.2 換気		-	-	-	-	-	-				-
1 換気量		3.0	-	-	-	-	-				-
2 自然換気性能		3.0	-	-	-	-	-				-
3 取り入れ外気への配慮		3.0	-	-	-	-	-				-
4.3 運用管理		-	-	-	-	-	-				-
1 CO ₂ の監視		3.0	-	-	-	-	-				-
2 喫煙の制御		3.0	-	-	-	-	-				-
Q2 サービス性能											2.9
1 機能性											-
1.1 機能性・使いやすさ		-	-	-	-	-	-				-
1 広さ・収納性		3.0	-	-	-	-	-				-
2 高度情報通信設備対応		3.0	-	-	-	-	-				-
3 バリアフリー計画	独自	3.0	-	-	-	-	-				-
1.2 心理性・快適性		-	-	-	-	-	-				-
1 広さ感・景観 (天井高)		3.0	-	-	-	-	-				-
2 リフレッシュスペース		3.0	-	-	-	-	-				-
3 内装計画		3.0	-	-	-	-	-				-
1.3 維持管理		-	-	-	-	-	-				-
1 維持管理に配慮した設計		3.0	-	-	-	-	-				-
2 維持管理用機能の確保		-	-	-	-	-	-				-
2 耐用性・信頼性		0.5	2.9	0.52	-	-	-				2.9
2.1 耐震・免震・制震・制振		0.4	3.0	0.48	-	-	-				-
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		3.0	3.0	0.80	-	-	-				-
2 免震・制震・制振性能		3.0	3.0	0.20	-	-	-				-
2.2 部品・部材の耐用年数		0.3	3.0	0.33	-	-	-				-
1 躯体材料の耐用年数		-	3.0	0.23	-	-	-				-
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	②	-	3.0	0.23	-	-	-				-
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		-	3.0	0.09	-	-	-				-
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		-	3.0	0.08	-	-	-				-
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		-	3.0	0.15	-	-	-				-
6 主要設備機器の更新必要間隔		-	3.0	0.23	-	-	-				-
2.4 信頼性		0.1	2.6	0.19	-	-	-				-
1 空調・換気設備		3.0	3.0	0.20	-	-	-				-
2 給排水・衛生設備		3.0	2.0	0.20	-	-	-				-
3 電気設備		3.0	3.0	0.20	-	-	-				-
4 機械・配管支持方法	②	3.0	3.0	0.20	-	-	-				-
5 通信・情報設備		3.0	2.0	0.20	-	-	-				-

3 対応性・更新性			0.4	2.9	0.48	-	-	-	2.9
3.1 空間のゆとり			0.3	3.2	0.31	-	-	-	
1 階高のゆとり			-	2.0	0.60		3.0	-	
2 空間の形状・自由さ		値0.034	3.0	5.0	0.40		3.0	-	
3.2 荷重のゆとり			3.0	3.0	0.31		3.0	-	
3.3 設備の更新性			0.3	2.8	0.38		-	-	
1 空調配管の更新性	②		-	3.0	0.17		-	-	
2 給排水管の更新性			3.0	2.0	0.17		-	-	
3 電気配線の更新性			3.0	3.0	0.11		-	-	
4 通信配線の更新性			3.0	3.0	0.11		-	-	
5 設備機器の更新性			3.0	3.0	0.22		-	-	
6 バックアップスペースの確保			3.0	3.0	0.22		-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	-	0.57		-	-	2.1
1 生物環境の保全と創出	独自③		-	1.0	0.30		-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮	独自④		-	3.0	0.40		-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			0.3	2.0	0.30		-	-	2.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	独自④		-	2.0	0.50		-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			-	2.0	0.50		-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性					-		-	-	2.6
LR1 エネルギー					0.40		-	-	2.5
1 建物外皮の熱負荷抑制			3.0	-	-		-	-	-
2 自然エネルギー利用			3.0	-	-		-	-	-
3 設備システムの高効率化		BEI=0	3.0	-	-		-	-	-
4 効率的運用			1.0	2.5	1.00		-	-	2.5
集合住宅以外の評価			1.0	2.5	1.00		-	-	
4.1 モニタリング			3.0	3.0	0.50		-	-	
4.2 運用管理体制			3.0	2.0	0.50		-	-	
集合住宅の評価			-	-	-		-	-	
4.1 モニタリング			-	3.0	-		-	-	
4.2 運用管理体制			-	3.0	-		-	-	
LR2 資源・マテリアル					0.30		-	-	2.5
1 水資源保護			0.1	3.4	0.15		-	-	3.4
1.1 節水		節水型小便器・大便器使用	3.0	4.0	0.40		-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			0.6	3.0	0.60		-	-	
1 雨水利用システム導入の有無			3.0	3.0	0.67		-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無			3.0	3.0	0.33		-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			0.6	2.3	0.63		-	-	2.3
2.1 材料使用量の削減			-	2.0	0.10		-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			-	-	-		-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	②	-	-	3.0	0.28		-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	独自	-	3.0	1.0	0.28		-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			3.0	-	-		-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	独自		3.0	3.0	0.34		-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			0.2	2.7	0.22		-	-	2.7
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	3.0	0.32		-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			0.6	2.6	0.68		-	-	
1 消火剤			-	2.0	0.33		-	-	
2 発泡剤(断熱材等)			-	3.0	0.33		-	-	
3 冷媒			3.0	3.0	0.33		-	-	
LR3 敷地外環境					0.30		-	-	2.9
1 地球温暖化への配慮	①	#DIV/0!	-	-	-		-	-	-
2 地域環境への配慮			0.5	3.4	0.50		-	-	3.4
2.1 大気汚染防止		燃焼器具なし	-	5.0	0.25		-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			-	3.0	0.50		-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			0.2	2.7	0.25		-	-	
1 雨水排水負荷低減	独自		-	3.0	0.25		-	-	
2 汚水処理負荷抑制			-	3.0	0.25		-	-	
3 交通負荷抑制	独自	敷地内1ウェイルートを採用	-	4.0	0.25		-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制			-	1.0	0.25		-	-	
3 周辺環境への配慮			0.5	2.4	0.50		-	-	2.4
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			0.4	3.0	0.40		-	-	
1 騒音	独自		-	3.0	1.00		-	-	
2 振動	独自		-	-	-		-	-	
3 悪臭			-	-	-		-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			0.4	1.6	0.40		-	-	
1 風害の抑制			-	1.0	0.70		-	-	
2 砂塵の抑制			-	3.0	-		-	-	
3 日照障害の抑制			-	3.0	0.30		-	-	
3.3 光害の抑制			0.2	3.0	0.20		-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			-	3.0	0.70		-	-	
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			-	3.0	0.30		-	-	

重点項目スコアシート

(仮称)信光産運株式会社一宮物流センター

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいも版手引き

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				N. A
LR3-1	地球温暖化への配慮	0.0	0.00	
② 資源の有効活用				2.7
Q2-2	耐震性・信頼性	2.9	0.22	
Q2-3	対応性・更新性	2.9	0.21	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	2.3	0.19	
③ 敷地内の緑化				1.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.17	
④ 地域材の活用			(評価ポイント)	1.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 (仮称)信光陸運株式会社一宮物流センター

計画上の配慮事項	
総合	倉庫用途よりシンプルに計画
Q1 室内環境	注)「Q1 室内環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 対象外。
Q2 サービス性能	倉庫用途なので空間の自由さを考慮
Q3 室外環境(敷地内)	特になし
LR1 エネルギー	特になし
LR2 資源・マテリアル	節水型衛生設備器具の選定
LR3 敷地外環境	敷地内をワンウェイルートで一方向交通で交通渋滞考慮
その他	特になし